

読書の森 2012 ～自分の物語を探しに行こう～

■ 事業のねらい

子どもの読書活動を促進するため、生活リズムと併せて子どもの読書活動を定着させる取組を推進することを第一のねらいとし、集団生活の中で協調性を養いながら非日常的な空間での読書体験や、集団での読書活動、その他参加者の自主的な読書活動の時間を確保することで、参加者の読書に対する意欲の喚起を図る。



- 実施日 平成24年7月27日(金)～7月29日(日) (2泊3日)
- 参加対象 小学3年生～6年生 30名
- 参加実績 参加者：40名(男子5名、女子35名)
 (室蘭市13名、伊達市10名、豊浦町2名、洞爺湖町10名、
 喜茂別町1名、ニセコ町2名、倶知安町3名、登別市1名)
 運営協力者：講師1名(壮瞥町教育委員会)
 道立青少年教育施設における校外研修教員1名、
 ニセコ町教育委員会1名、伊達高等学校生徒1名、
 虻田高等学校生徒1名、札幌国際大学学生2名、
 伊達赤十字看護専門学校学生3名
- 備考 活動場所：洞爺少年自然の家
 後援：胆振管内市町教育委員会・後志管内市町村教育委員会
 協力：壮瞥町地域交流センター図書室
 壮瞥町図書ボランティア「ポピーの会」
 壮瞥町読み聞かせボランティア「ひだまりの会」

1 事業実施の背景

読書活動は、子どもの言語感覚、感性、表現力、創造力の醸成には欠かせないものであり、生きる力を身につけていく上で重要な役割を担っている。

しかし、インターネットや視聴覚機器の普及や生活環境の変化等に伴い、子どもたちの読書離れは憂慮すべき事態にあり、子どもの読書活動推進の必要性は高まる一方である。

本事業は、地域の図書施設と連携して読書環境の整備と充実を図り、非日常的な空間での読書体験や、集団での読書活動をとおして、子どもたちの読書習慣の確立を目指すとともに、生活リズムチェックシートを活用した生活習慣の見直しの取組を推進するものである。



2 プログラムデザイン

1日目 7月27日(金)																		
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
							受付:ネイパル洞爺 (13:00～13:30)	受付	開 会 式	仲 間 を つ く ろ う!	本 を 選 ぼう!	ワイルドだぜ! 野外炊飯!		入 浴	夜 読 書	就 寝 準 備	消 灯	
2日目 7月28日(土)																		
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
起 床 洗 面	朝 体 操	朝 読 書	朝 食	準 備	う ! 本 を 知 ろ	自然の中で 読書!	昼 食	洞爺湖を探検! いかだ体験!		自分だけのしお りをつくろう!	夕 食	お 楽 し み	入 浴	夜 読 書	就 寝 準 備	就 寝		
3日目 7月29日(日)																		
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		
起 床 洗 面	朝 体 操	朝 読 書	朝 食	掃 除	お 気 に 入 り を 紹 介 し よ う!	ふ り 返 り	閉 会 式	解散 12:00										

■ アクティビティについて



■ 意図

- 施設周辺の豊かな自然環境の中での読書活動をとおして、読書活動の充実と意欲の高揚を図った。
- 創作活動を取り入れ、創造力・表現力の醸成を図った。
- 起床後や就寝前の読書活動をとおして、読書活動の充実と習慣化を図った。
- 「生活リズムチェックシート」を活用し、規則正しい生活リズムの定着を図った。

■ 留意事項

- 本を読む時間の確保を第一に考え、時間にゆとりを持たせた。
- 施設周辺の豊かな自然環境を存分に活用した読書活動を展開した。
- 壮瞥町図書室の協力を得て、絵本から小説まで、参加者のニーズに応えられるように、多種多様な図書を用意した。また、会場に常に本を並べ、参加者がいつでも本を手にとれる環境をつくり、参加者の読書に対する意欲を高めた。
- 参加者の交流を深め、より効果的に事業を展開するために湖水活動やグループ活動を取り入れた。また、プログラムの順番も、体験と読書が交互に展開されるような流れを計画した。

3 活動の様子

■ 当日の様子

- 初日は、参加者同士の交流をねらいとしたアイスブレイク・野外炊事を実施した。最初は緊張していた参加者も、周囲に徐々に馴染み、生き生きと活動した。
- プログラムの初期に、壮瞥町の図書司書の協力を得て「本を選ぼう」を実施した。読み聞かせやブックトークを体験する中で、「本」に対して興味・関心を高め、同時に本の種類や選び方を学んだ。
- 朝読書・夜読書では、全員が同じ場所で読書を行い、お互いの読書に臨む姿勢に刺激を受けながら自主的に読書活動を行った。
- 詩の創作を行った「本を知ろう」や、ラミネートを活用した「しおりづくり」では、創作する喜びを味わい、お互いを認め合いながら活動した。
- 「自然の中で読書」では、日常ではあまり経験のない野外での読書活動に、意欲的に取り組んだ。
- 参加者たちは終りラックスし、落ち着いた雰囲気の中で諸活動に臨んでいた。

■ 参加者の声（アンケートから）

- 久しぶりにゆっくりと読書ができた。
- 自然の中で読書をするのが新鮮だった。
- しおりづくりが楽しかった。
- 読みたい本がまだまだたくさんあった。もう少し長くやりたい。
- みんなで本を読むのがすごく楽しかった。



4 事業評価

■ 評価の重点

本事業は、読書活動の推進しながら、生活リズムの見直しを図ることを目的とし、また、家庭を離れての生活の中で、自ら考え、判断して行動することを重視した。そのため、「日常的行動」「非依存」「交友・協調」「視野・判断」の向上について重点を置いた。

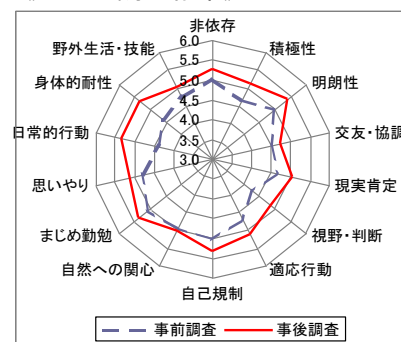
■ 参加者の変容と分析・考察【I K R調査結果】

全ての項目で向上が見られたが、中でも「日常的行動」で大きな向上が見られた。集団生活や、生活リズムの見直しを意識付けた成果だと思われる。

「視野・判断」で見られる変容は、キャンプ及び事業に初参加の子どもが多く、親元を離れて生活する中で、自分自身で考えて行動を決定しなければならない環境が作用したものと考えられる。

また、「身体的耐性」「積極性」「適応行動」の項目で予想以上の大きな変容が見られた。自然の中や集団で生活する上で、自ら考えて行動し、周りと協調したり、「我慢」ができたという参加者の自覚が自信につながったものと考えられる。

《I K R調査結果》



5 まとめ

■ 成果

- 洞爺の豊かな自然環境を生かしたプログラムを展開することができた。
- 読書活動の充実に向けて、参加者のニーズに十分に答えられるような、図書や時間の確保ができた。
- 初めてキャンプに参加する子どもも多かったが、ゆとりのあるプログラムを組むことで、精神的にも落ち着いた状態で事業を展開することができた。
- 壮瞥町教育委員会の協力を得て、連携して企画することで、より効果的な事業を展開することができた。
- 本来は個々で行う読書活動だが、集団での読書活動を取り入れたことが、参加者の読書に対する意欲を喚起し、効果的に読書活動を促進することができた。
- 生活リズムチェックシートを活用することで、参加者が日常の生活との違いを客観的に考えることができた。

■ 課題・今後の方向性

- 読書が好きなお子もたちが多く参加することから、読書時間を確保する必要がある。
- 事業期間中だけでなく、事業後にも自主的に読書活動に取り組むような働きかけや取組を考える必要がある。
- 参加者の意欲喚起につながるような効果的なブックトークを準備し、展開する必要がある。